

ト云コトヲ知ズ、疥ガ曰、吾根アラズシテ生ジ、母ナフシテ成乃チ陰陽ノ氣ヲ稟テ育シ、濕熱形ヲ化シテ常ニ王侯掌上ニ列ス、何ゾ士庶ノ身ヲ妨ゲン、

〔斷毒論天〕疥源略○中

後世之疥者、古之所無、而從異域傳來、無亦異乎痘癩癩之傳來耳、略○中 顧此毒之傳、蓋在于唐以降乎、

縱彼邦自古而有之、於我日本無有焉、按和名抄天曆中源順著訓疥癩曰、巴多却氣訓却、依是觀之、天曆時

未有今之疥也者、肌膚癢蠶、總稱巴多却、今之疥者、通稱肥前瘡、肥前俗號曰小瘡、諱國名也、以其初起

於肥前、故名肥前瘡、猶起於膚者、名膚瘡、起於斯幫私者、名斯幫私、朴屈起於廣東者、稱廣東瘡也、略○中

是固非時氣風淫之所發、全因疹氣一種之傳染、故避則必免、不避則冒、

〔一話一言 二十八〕寛永年中肥前瘡

寛永年中に、人の身に瘡のいでき、其名をたれいふともなくひせん瘡といふ、見る人間人ひせんおこりたるといはぬ者なし、同じく寛永十四年に、西國肥前に吉利支丹といふ邪法の一揆おこり、武士うけたまはりて害之、これも後に思ひあはせける、鼠物語

〔塵塚談下〕肥前瘡は、野鄙の民間の瘡にして、連に傍人に傳染するなれば、貴賤ともに忌嫌ふの瘡

なり、高貴奥向にては、婢女に少しにも濕瘡有時は、即日に宿元へ下る事ぞかし、故に貴族の家に此瘡有事なし、されど此瘡にて、手に箸を持事もならぬほどなやみしもの、或は年久しく煩ひし者は、極めて無病息災にして、長壽なる者おほし、此瘡は身をそこなひ名を失ふ病にあらざれば、餘りに忌避るの瘡には有べからず、

〔瘍科秘録 五〕疥癩 内攻腫

疥癩ハ世ニヒゼシカサト稱シ、原ハ肥前ノ國ヨリ起タルモノユエ名クルナリ、其因濕氣ヲ受テ發スルト云フ説ニテ、今ハ通ジテ濕瘡ト呼ブナリ、其毒傳染シ易シテ、一人患フレバ舉家盡患フ